



### 神奈川大学フロンティアクラブ会報

発行日 2011年10月7日  
 編集・発行 神奈川大学フロンティアクラブ  
 組織・広報専門委員会  
 事務局 神奈川大学 総務部校友課内  
 〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1  
 TEL.045-481-5661(代)  
 FAX.045-481-2741

第 16 号

先ずはフロンティアクラブの活動に暖かいご支援、ご協力を頂いている皆様に厚くお礼を申し上げます。

1、大震災の被災者支援について  
 早くも半年有余を経過した東日本大震災、次いで9月の台風12・15号による災害、この間断なき厳しい報道が我々の心を痛め続ける昨今です。改めて亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。同時に、被災在学学生、そのご家族やご親族の皆様、又、被災地自治体首長として復旧・復興に陣頭指揮を執られている母



人との絆の強さを実感  
 ～本年度事業計画の推進にあたって～

神奈川大学フロンティアクラブ会長 鈴木 実 (35買易卒)

校卒業生の福島県知事、石巻市長、遠野市長、棚倉町長など、日々募るご労苦は如何ばかりか察するに余りあります。心より労いとご健闘をお祈りする次第です。

これらの状況の中で、今や神奈川大学においては「東北ボランティア駅伝」を始めとする現地再建・再生への様々なボランティア活動、そして被災学生への支援を目的にした「東日本大震災学生支援室」の設置、学費の減免・生活支援策等々、精力的な支援活動が展開されております。

こうした大学を挙げての取り組みに心から感謝するとともに、フロンティアクラブとしても出来る限りの応援をしていかなければと考えております。その一助として、本年度は当クラブの「奨学金協力」活動には被災学生支援を加えたものにすべく現在、当クラブ運営委員会で検討しているところであり、今回

の大震災は、国民的な議論となりつつある日本のエネルギー政策のあり方の問題ばかりでなく、我々一人ひとりの価値観にも大きな影響を及ぼしました。人と人、組織と組織、ひいては国と国との繋がりが、これほど強く意識されたことは、今までなかったことだと思います。また、それを契機に、「誰かのために何かをしたい、役に立ちたい」という純粋な思いと行動が世の中にあふれ、我が母校においても全学挙げての被災支援の輪が大きく広がっていることは、一人の人間、又、OBの一人として嬉しく、心強く感じております。

2、厳しい情勢の中で、さて、以上のような大災害克服への多難な道程の中で、大学を取り巻く経営環境も益々厳しい度を深めております。少子化の加速、大学間の競争激化を背景に、志願者・入学定員の確保、就職の

促進、良質な教育研究環境作り等々、大学運営を安定的に継続させていくための課題は山積です。これらに対処するため、先般、創立100周年に向けた「将来構想」に基づく「中長期財政計画」が策定されました。押し寄せらる厳しい諸問題克服に向けて、本計画は今まさに全学を挙げての実行に入っております。

3、フロンティアクラブの活動状況  
 大きな環境変化をもたらした昨今の情勢を踏まえながら、本年度も2月開催の総会決議事項に基づき、当クラブの使命に沿った活動を推進中であり、



◆奨学金協力のための募金活動  
 へ昨年度ご厳しい経済情勢下でありましたが、会員の皆さんの熱い情熱とご支援のお陰で募金実績は相応の成果を挙げ「村橋フロンティア奨学金制

### フロンティア会員の近況

#### 政務担当官房副長官就任

齋藤 勁 氏(さいとう つよし)(44法卒)

野田首相より、「この1年、ねじれ国会の中で仕事をしてきた蓄積を生かして仕事をして欲しい。」と要請され就任を決意されました。「国内外の多岐にわたる課題を扱う官房長官を支えることの責任の重さを痛感している。全力で取り組んでいく。」と抱負を語りました。

齋藤氏は国会対策委員長代理として野党との対立が厳しさを増す中、安住委員長とともに野党との協議を努めてきました。(神奈川新聞 抜粋)

#### 第7回キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)全国大会 テクノロジー部門 文部科学大臣賞を受賞

原 顕寛 氏(はら あきひろ)(平6法卒)

「ステムセルバンキング(幹細胞が誰でも活用できる社会を目指す)」  
 受賞の言葉「臍帯血の大半が活用されていない社会的問題を知ってもらい確実に社会を変えていきたい。」

日刊工業新聞主催のキャンパスベンチャーグランプリは、新事業の提案コンテストを通じて、日本の次代を担う若者の人材育成と新産業の創造を目的としています。起業家精神を養い、問題・課題解決型の人材を育成する教育事業プロジェクトとして位置づけています。(日刊工業新聞 抜粋)

### 平成23年度 村橋・フロンティア奨学金 授与式開催される



平成23年7月14日横浜キャンパスにおいて平成23年度村橋・フロンティア奨学金授与式が開催されました。本年度は、大学院工学研究科の大学院生1名を含む10名が採用されました。

昨年に続いて2度目の採用となった赤井さん(経済2年生)は奨学生代表として、その喜びと深い感謝の意を表しました。「様々な目標や強い意志を持った多くの友人と出会って、自分と違った考えを持つ人と意見を交わし、お互いを鼓舞し合う事で自分の視野を何倍にも広げられることを知りました。」また、「昨年は、海外語学研修に参加し、フランス語研修3級も取得しました。今年は国家資格のITパスポートの講座に参加しています。」と謝辞の中で述べました。

### 第17回 神奈川大学 ホームカミングデー開催のご案内

このたび、日頃本学にご支援くださる卒業生の皆様への感謝の意を込め、旧師や旧友、そして母校神奈川大学との絆を深めていただくことを目的として、神奈川大学ホームカミングデーが開催されます。ぜひこの機会にお越しいただき、秋の一日を母校で楽しくお過ごしください。

ホームカミングデー(横浜キャンパス)は、社団法人宮陵会(校友会)の協賛を得て、卒業後50年以上、35年、20年、10年および本年3月卒業の方々を毎年ゲストとしてお招きしています。

【日 時】 2011年10月16日(日) 12:00～  
 【会 場】 神奈川大学横浜キャンパス体育館  
 【問合せ先】 神奈川大学 ホームカミングデー実施事務局  
 電話:045-481-5661(代表)FAX:045-481-2741



# 産学連携が生み出すビジネス展開

～触れてみよう、新時代を読む大学の研究～

## 第60回「神奈川大学産学交流フロンティアサロン」

### 期待される医療、介護(福祉)ビジネスを展望する ～医療、介護ベッドメーカーの開発現場からの報告～

#### 講師

パラマウントベッド株式会社  
取締役技術本部長 坂本 郁夫氏  
(52工業経営卒)



日時 平成23年10月26日(水)  
18:00～20:00  
会場 KUポートスクエア  
神奈川大学みなとみらいエクステンションセンター  
会費 クラブ会員 1,000円、一般 2,000円

#### 講演概要

創業60年の医療、介護ベッドの専門メーカーであるパラマウントベッド社は、現場主義を中心とした製品開発により、お客様に満足していただける物づくりを心掛け、その結果高いマーケットシェアを維持し続けています。今回の講演では、少子高齢化社会を迎え、急変する医療・介護(福祉)環境に対応するための弊社製品開発の取組み等をお話させていただきます。

#### <坂本郁夫氏プロフィール>

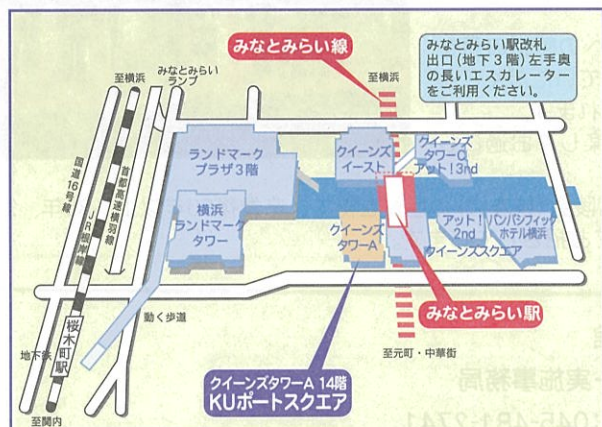
1977年(昭和52年)神奈川大学工業経営学科卒業。同年、木村寝台工業(現パラマウントベッド(株))入社。1992年広島支店長、1997年横浜支店長、1999年営業本部長、2000年取締役営業本部長、2009年取締役技術本部長就任、現在に至る。(財)日本医療機器学会評議員、(財)医療関連サービス振興会開発委員、山口県地域技術統合化促進事業推進会議委員等。

#### 申込方法

氏名・住所・電話番号を明記の上、はがき・FAXにて下記までお申込ください。当日は会費を持参の上、直接会場へお越しください。当日参加可。(招待状等は特に発送いたしません。)

#### 申込問合せ

〒221-8686 神奈川大学 総務部 校友課「フロンティアサロン10/26」係  
TEL 045-481-5661(内線2150) FAX 045-481-2741



**KUポートスクエア** 横浜西区みなとみらい2-3-1  
クイーンズタワーA 14階  
TEL 045-682-5553

**【交通】** みなとみらい線 みなとみらい駅 徒歩2分、  
JR根岸線・市営地下鉄 桜木町駅 徒歩7分

次回開催予定 11月16日(水) 18:00～

- 講師** 神奈川大学 工学部建築学科 教授 内田 青蔵氏
- テーマ** 「日本に住宅建築として洋館が建てられた経緯について」
- 主催** 神奈川大学フロンティアクラブ
- 共催** 神奈川大学 みなとみらいエクステンションセンター



◆産官学共同事業、フロンティアサロンの実施  
 昨年度、本学の教授・研究者として初の試みとしてOBによる講演(2回)を併せ計6回のサロンを実施、発足以来59回の実績を重ねました。産

◆組織・広報活動  
 昨年度、会員の拡大活動を行った結果、新規に12名の方の参加を得て会員総数は114名となりました。募集に当たっての皆様のご協力に感謝申し上げます。広報資料「当クラブ入会案内」(パンフ)の更新、HPの充実を図りました。

業界で活躍中のOBによる中小企業戦略の講演も身近なテーマでしたし、何れも大変興味深い題材に参加者との熱心な意見交換もあり有意義なサロンでした。  
 昨年度、昨年に引き続き、現在飛躍的な成長を遂げている企業の若手経営者(OB)を講師とし、中小企業の中国戦略(7/20実施済)、医療・介護ビジネス(10/26予定)など、ナマ情報を基にOB間の情報交換や企業連携、中小企業の海外進出戦略等を探ります。当サロン開催は毎回、皆様にご案内しています。残念ながら参加者は依然として少数です。貴重な機会を逃さないよう、ご参加を切にお願いいたします。

◆誰かのために何かを、何か役に立つことを  
 人と人、組織と組織の絆、今、まさにこの純粋で貴重な心の表れが、我が母校全ての機能に発揮され、又、数々の行動に示されています。素晴らしいことです。  
 しかし引き続き自然現象の大きな変化と同様、昨今の世情は激しく揺れ動き、先行きの不透明感が人々の心の底に深い不安を落としています。その中で大学を取り巻く諸情勢も一段と険しさを増しています。急がれる教育研究環境の充実化、一方では経済的な理由で学業継続に苦しむ学生・深刻な就職実態へのバックアップ等々、当クラブが母校の発展のためにお手伝いしたい課題は少なくありません。どうかこれまで同様に皆様方の温かいご支援、ご協力を頂き、人と人の絆を大切に育て、当クラブの更なるパワーアップを図るべく委員一同、力の限り尽くしてまいります。よろしくお願い致します。

昨年度、引き続き新規会員の募集活動に注力します。又、会員相互交流のイベント企画、広報として当クラブ活動状況、会員の活躍情報を発信する予定です。

#### 【神大サロン活動紹介】

#### 第62回フロンティアクラブ産学交流サロン

テーマ:「中小企業の中国戦略・その実践と課題」

【開催: 7月20日】

講師: スターウェイ株式会社社長 竹本 直文氏(57経済卒)の講演要旨と会社概要

産官学共同専門委員会委員長 小 淵 昌 夫 (42貿易卒)

2回も経済産業大臣賞を受賞し、中小企業基盤整備機構が所管する新連携事業化事例集や数々の新聞雑誌に登場するスターウェイ社は、1982年3月、神奈川大学経済学部卒の竹本直文氏が起業したベンチャー企業である。現在、会社は環境ソリューションプロバイダーとして資源の有効利用とビジネスの融合を目指し、「ICタグの機能を活用した、ゴミ「ゼロ」、梱包材による物流管理統合システム」のサービスを提供している。竹本社長は、大学卒業後、半導体メーカーに勤務し、そこで製品の搬送に使用されていた梱包材が「ワンウェイ」で全て「ゴミ」として廃棄されているのが「もったいない」事に着目し起業した。事業化では数々の苦難を経験し、当初は販売をしたものの売れず、それならばと最後は「CSR」を目指し、運送業者と提携し、商品の「イースターパック」の組立て・梱包・配送から回収まで纏めて担当する一貫したサービス「環境デリバリーパック」として提供する事業に転換していった。事業を通して連携を頂いた運送業者やお取引先の国際化に関連して得た経験、特に、中小・ベンチャー企業の中国ビジネスの経験についてその真髄を拝聴した。その骨子は、①マーケティング、②現地パートナー

の選定ポイント、③会社設立の際の注意点、④知財の保護であった。さらに、中国工場(山東省榮成市)内に設立した「中国事業インキュベーションセンター」では、日本から進出を希望する中小・ベンチャー企業に、実際にビジネスで得たノウハウを提供し支援する。竹本社長は、この施設内でネットワークをつくり、海外で利益を獲得し、日本に還元する仕組みづくりを構築したいと抱負を語った。最後に、特に、神奈川大学の卒業生の進出を期待していると、講演を締めくくった。

